

# 「東日本大震災：大津波がすべてを変えた」

宮城県気仙沼市消防団 分団長 村上 貴敏



※本稿は、研修会での報告内容を掲載しております。

2011年3月11日、観測至上最大、巨大地震、史上稀に見る破壊力で押し寄せた津波…大津波がすべてを変えました…

宮城県気仙沼市消防団第3分団長の村上です。

それではテーマ「東日本大震災による被害」「消防団の災害活動」「課題と今後の対策」この3点を中心に東日本大震災の活動報告を発表します。

はじめに、気仙沼市の概要です。

気仙沼市は、宮城県の北東端に位置しリアス式海岸特有の丘陵が海に迫り出した地形をしており、河口や谷間の平坦地を中心として市街地が形成されています。東は太平洋に面し、湾の入り口に離島大島を配した天然の良港で、全国有数の漁業基地として各地の漁船が入港し繁栄してきました。市の総面積は333.37km<sup>2</sup>で、宮城県内では7番目の広さです。



気仙沼市消防団の組織図です。

震災時の団員数は、団長以下860名になります。組織は、本部と第1分団から第14分団までの4と9の分団を除き、12の分団となっております。

私の第3分団は4部11班で80名の団員で構成されております。本部の企画部は消防団の健全な発達と円滑な運営を期するため、副分団長の職にある者をもって組織しております。

消防施設の拡充に関すること、消防計画の企画立案、消防団員の教育訓練に関することなどを調査研究しております。



主な三陸を襲った過去の津波災害であります。

明治三陸地震津波では、気仙沼市での人的被害も多く、死者が1,906人でした。また35年のチリ地震津波の時は、遠地津波であり、22時間30分後に到達しております。

これらの災害を教訓に、気仙沼市では、毎年、地区住民と防災関係機関が連携して避難訓練を実施してきました。

三陸の特徴はリアス式海岸における狭い地形、狭い市街地、湾から一体となった地形、港として古くからの活用、そして、沿岸漁業や養殖などの漁業が盛んで、沿岸に漁業者の生活圏がありました。

これらの特徴は、津波被害の規模の大きさの要因でもありました。まだ暫定の部分もありますが、東日本大震災の概要です。

地震の規模は、当初マグニチュード8.8だったのが、その後、モーメントマグニチュード9.0に修正され、国内観測史上最大規模でありました。

14時49分に「大津波警報」が発表され、当地域での観測は、気仙沼市消防署大島出張所隊による、高台海面監視で15時11分に押し波による第1波を観測しました。

気仙沼市の被害状況についての報道記事です。

気仙沼市では、屋外タンクの流出による内湾大火災や浸水災害の巨大さに住民がぼう然となりました。



各機関の動きです。

3月11日、14時46分に、宮城県三陸沖を

震源とする巨大地震が発生。

気仙沼市では、直ちに災害対策本部を設置し、非常配備を指示しております。

消防団は、事前命令により消防屯所に参集しました。14時49分、気象庁から「東日本沿岸に大津波警報」が発表され、消防団は、水門扉の閉鎖と避難広報活動を実施しております。

気仙沼市の被害状況です。

暫定的な数値ですが、6月30日現在、人的被害は死者983人、行方不明者446人になります。住家被害は、全壊8,492棟、半壊は、2,259棟であります。

避難所は、52ヶ所で、2,308人の避難者が避難所で生活しております。

気仙沼市消防団の被災状況です。

人的被害は、死者が8人で、うち公務中が6人でありました。

屯所などの施設は、95施設のうち、全壊が33棟で半壊が3棟であります。

消防車両等は、84台の車両のうちポンプ車が2台、積載車が10台で、小型ポンプは、86台のうち22台が津波により、流失水没しました。

津波浸水区域は、気仙沼市が浸水面積18km<sup>2</sup>で、浸水比率が5.4%であり、浸水範囲が市街地におよび壊滅状態となりました。

気仙沼市の津波浸水地域です。

赤で塗られた面積は、宮城県が第3次被害想定で想定していた津波の範囲であります。

今回の大津波は、その範囲をはるかに超えまして、青線で囲んだ範囲まで浸水しました。

津波高の種類は、遡上高と浸水深がありますが、気仙沼市前浜地区の海岸沿いの工場付近で、高さ11.49mの遡上高が測定さ